

国際構造コンクリート連合ミーティングへの参加報告

菊田 悦二

1. はじめに

2019年12月5～6日にベルギー・アントワープ市で開催された国際構造コンクリート連合（fib）タスクグループミーティングに参加し、コンクリートに関する国際基準等の動向に関する情報収集の機会を得ましたので報告します。

2. 国際構造コンクリート連合（fib）について

fibでは、コンクリートに関する国際的な技術資料として世界各国の技術団体や専門家、研究者に活用されている「fibモデルコード2010」の2020年の改訂を目指した検討が行われています。

この検討は、検討対象ごとに9つのコミッションとこれらに属する50以上のタスクグループの体制下で行われており、この中でタスクグループ3.4では、既設コンクリート構造物を対象としたコミッションのうち「既設コンクリート構造物に対する対策の選択と実施（Selection and implementation of interventions）」を検討対象としており、座長は北海道大学の上田多門名誉教授が務めています。

当研究所では、コンクリート構造物に関する点検・診断・評価、補修・補強技術について長年研究してきた知見を有しており、国際貢献の取り組みとして新たなfibモデルコードへの研究成果の反映を図るため、タスクグループ3.4に参画しています。

3. モデルコード改訂に向けた検討

新たなモデルコードとなる「fibモデルコード2020」のファイナルドラフト（最終草案）の取りまとめに向け、各タスクグループやコミッションは担当するセクションの作成・修正に加え、関連するタスクグループ間でも調整等、精力的な活動が続けられています。

タスクグループ10.1（モデルコード改訂作業の調整役であり、各コミッション・タスクグループの主要メンバーが参加）は4月以降にミーティングを3回開催さ

れており、タスクグループ3.4からは座長の上田教授やSecretaryの長岡技術科学大学・下村匠教授らが出席し、筆者の執筆担当分を含むタスクグループ3.4の担当セクションである「Interventions」（対策）等の最新の執筆状況を報告し、ミーティング内で議論が行われてきました。

筆者は既設構造物に対する対策工法の選定に関するサブセクションである「Selection of interventions」（対策の選択）の執筆を担当しており、これらのミーティングでの議論や各委員から寄せられた意見に対応すべく、上田教授・下村教授をはじめ関連する各有識者等との協議を経てコンテンツの修正や追加を引き続き行い、ミーティングの都度、最新の改訂資料の提供を行ってきました。



写真-1 コミッション3ミーティングの様子（アントワープ大学）

4. コミッション3およびタスクグループ3.4ミーティングへの参加

今回アントワープ市では、既設コンクリート構造物を検討対象とするコミッション3に属する各タスクグループ（3.1～3.5）のメンバーが参集し、互いに関連性が高いセクション担当のタスクグループ間での情報交換・共有や要調整事項の確認および議論、ファイナルドラフト公表までの検討スケジュールの確認などが行われました（写真-1）。

2日間に亘るミーティングでは、初日にタスクグループ10.1のConvener（議長）でありタスクグループ3.4メンバーでもあるMatthews教授からの情報提供として、各セクションの改訂作業の進捗状況および公表に向けた今後の作業スケジュールの見通しについて説明がなされました。

それによると、当初スケジュールでは今年4月に中国・上海で開催されるfibシンポジウムおよびそれに併せて開催されるタスクグループ10.1ミーティングにおいてファイナルドラフトのコンテンツの採択を行い、2020年に公表することを目指していましたが、現在セクション間で作業進捗に差異があり、タスクグループ10.1の技術事務局および編集グループによる調整作業の開始が遅れざるをえないことから、公表時期を2021年6月にポルトガル・リスボンで開催されるシンポジウムの時期に変更することが周知され、それに向けた新たなタイムテーブルが示されました。

またコミッション3の全体ミーティングにおいて、各タスクグループの代表者からモデルコード改訂に係るこれまでの活動経緯、検討対象事項についての進捗状況、他タスクグループとの共同検討の状況、作業スケジュール等の報告が行われました。タスクグループ3.4からは下村教授から当タスクグループの活動についての説明がなされました（写真-2）。

さらに、各タスクグループもしくは複数のタスクグループによる個別のミーティングも行われました。筆者はタスクグループ3.4ミーティングにおいて担当するサブセクションの最新の執筆状況について紹介し、特にこれまでのミーティングにおいて寄せられた意見に応じて新たに作成したコンクリート構造物の“疲労による劣化”に関するコンテンツについて詳しく説明しました。その中で、近年日本国内等において深刻化しているものの世界的には限定的な現象であるために公式な英語表記が定められていない「コンクリート床版の“土砂化（砂利化）”」について、今後使用していく英語表記を提案し、欧米の委員も含めて賛同が得られました。

日程の最後には再びコミッション3の全体会議が行われ、個別のタスクグループミーティングでの検討内容や、リバイスされた作業スケジュール等についての報告がなされました。

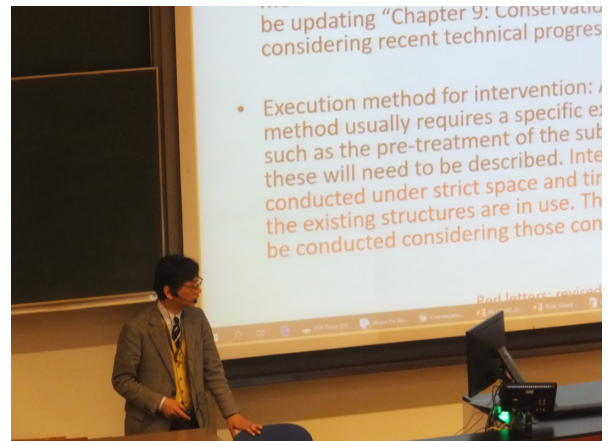


写真-2 コミッション3ミーティングにおいてタスクグループ3.4の活動について報告する下村匠教授

5. おわりに

гент市でのミーティング後、さらに12月に東京、2月にチェコ・プラハ市でタスクグループ10.1ミーティングが開催されるなど、モデルコード改訂に向けて引き続き活発な活動が続けられています。

筆者が参加した東京でのミーティングでは、上田教授から筆者の執筆担当分を含む「Interventions」の最新の改訂状況の説明がなされ、参加メンバーから筆者が執筆を担当する「Selection of interventions」に対しても新たな意見が寄せられたため、関連する有識者等の協力も得ながら新たなコンテンツの作成を進めているところです。

モデルコードの改訂と併せてコンテンツの作成が進められている技術資料（Bulletin）についても筆者の執筆担当分に関する詳細な資料掲載する予定となっており、これについてもコンテンツの作成を引き続き進めています。

これらの活動を通じて、2020年度も引き続き国際貢献を図っていきます。



菊田 悦二
KIKUTA Etsuji

寒地土木研究所
寒地保全技術グループ
耐寒材料チーム
総括主任研究員
技術士（建設）